学校だより

# 磨光

令和８年１月１３日（火）
三豊市立本山小学校
No. 24
発行者：中田　祐二

『りんごかもしれない』『あるかしら書店』など、面白くて深い絵本で知られるヨシタケシンスケさんの言葉です。

……「僕はこれだけやっていれば楽しいし、周りも楽しませることができる」ということを探すことが大事だと思います。自分は「何係」なのだろうかと、探すのが人生なのだろうと思っています。たぶん、その「何係」が分かった人が、一番幸せと言われるものに近い位置にいるのでしょう。
（『初等教育資料』平成 31 年４月号、「教育の扉」から抜粋）

## 私の「好き」を見つける旅へ　～2026 年 始まりのチャイム～

元旦の毎日新聞に、人型ロボットを取り上げた「共に働く未来 すぐそこに」という記事が掲載されていました。現在、安価なロボットは 200 万円程度で供給されていること。2060 年には世界で約 30 億台のロボットが稼働していると予測されること――。「高度な知能をもったロボットが私たちの仲間となった時、どのようにうまく共生できるのかが問われる」と、ある識者が述べていました。

手塚治虫さんに「火の鳥 未来編」という漫画があります。西暦 3404 年の未来世界を描いた漫画です。高度に文明を発達させた人類は地下に大都市を作り、豊かで安楽な生活を享受しています。

しかし、その社会を動かしているのは電子頭脳。朝ごはんのメニューから服装まで、すべて電子頭脳が人間を差配しています。しかし、電子頭脳に依存しきった人間たちは、国同士のもめごとを自分たちで解決できずに電子頭脳の判断に頼り、「戦争」という道を選んでしまうのです。

60 年も前に書かれた漫画でありながら、他人事として看過できない時代になっていると感じます。

人間らしいとは何か。始業式で子どもたちに話しました。

……パソコンに、「おいしいお店を教えて」と尋ねると、絶品グルメスポットを教えてくれます。「はやりの歌を教えて」と尋ねると、ミセスグリーンアップルの歌を紹介してくれます。そして、それが正解だと思って、みんながその情報に乗っかっていませんか。

でも、コンピュータの言いなりではなくて、「私にとってのおいしいお店は、家族とよく行く『〇〇亭』」だとか、「私の好きな歌は、石川さゆりの『津軽海峡冬景色』」だとか、そういったものがある方が、人間らしくてよくないですか。そして、そういう人って、幸せそうではありませんか。

この冬休みに改めて『火の鳥』を読み返してみて、「自分で考えられず、人任せにして自分らしさを失ってしまったら、人は幸せにはなれない」。このお話は、そういうことが言いたかったのかな…とふと思いました。

2026 年の始まりです。本山小学校では、新しい竹馬を買っています。一輪車も新車になりました。竹馬や一輪車、そしてその他にも、いろいろなことにチャレンジしながら、みなさんの「自分の大好き」が見つかる一年になるといいと思っています。

「自分の大好き」「自分らしく」が、みんなの中で輝く。冒頭のヨシタケシンスケさんの言う「係」とは、そういうものなのだと思います。子どもも大人も、自分の幸せが見つかる１年になるといいと願っています。

**【お知らせ】**

PTA 会計で一輪車と竹馬を購入しました。早速、休み時間に子どもたちが挑戦しています。昔からずっと残る遊びには、素朴ながらも子どもの心を捉える何かがあるようです。